

質 問 回 答

2020年11月5日

「(案件名：20a00609 全世界日本の廃棄物管理及び循環型社会の実現に向けた経験・技術及び途上国支援への適用(プロジェクト研究)(一般競争入札(総合評価落札方式))」

(公示日：2020年10月21日/公示番号：20a00609) について、業務指示書に関する質問と回答は以下のとおりです。

通番号	当該頁項目	質問	回答
1	P13 第2章特記仕様書 3. 業務における留意点 (1) 調査体制	・アドバイザーおよび監査委員について候補者の情報は提供いただけるでしょうか。	具体的な人選は JICA にて現在検討中のため、契約締結後に情報共有します。業務計画書の提出前に共有することを想定しています。なお、該当箇所においては、「監修委員」の名称が正確な名称であることを念のため申し添えます。
2	P16 第2章特記仕様書 4. 業務の内容(2) 現地調査 <調査対象国の選定方法>	(1) 「③日本の経験・技術の親和性が高く」とは具体的にどういうことを意味するのでしょうか。 (2) 対象とする国、案件は、受注後に業務計画書で提案することは可能ですか。 (3) 候補となる主要案件として挙げられている案件の受注者であるか否かは、評価に関係しないと考えてよいですか。 (4) 候補案件の報告書(課題別研修の実施報告書、無償資金協力の本体事業の報告書を含む)、カウンターパート情報は実施前にご提供いただけるのでしょうか。もしくは、コンサルタントが調べることになるのでしょうか。	(1) 廃棄物管理や環境行政にかかる組織体系、経済社会構造などの環境や、過去に日本が経験した課題との共通性が高い事例、という意味合いで記載しています。 (2) 可能です。 (3) ご理解のとおりです。 (4) JICA から提供します。
3	P20 第2章特記仕様書 5. 報告書等(成果品)	P14(ア)では、業務中間報告書(案)の作成・提出が2021年8月上旬とありますが、左記では2021年7月上旬を提出時期としています。どちらにな	・該当箇所を以下のとおり訂正します。 【訂正前】(2) 業務中間報告書 ②提出時期 2021年7月上旬

通番号	当該頁項目	質問	回答
	(2) 業務中間報告書	るでしょうか。	【訂正後】(2) 業務中間報告書 ②提出時期 2021年8月上旬
4	P34 評価表 1. コンサルタント等の法人としての経験、能力、および3. 業務主任者及び業務従事者の経験・能力	“類似業務の経験として、最近10年程度の経験にプライオリティをおき評価する“とありますが、本件業務では日本の廃棄物管理に関する歴史的な変遷を通じた知見・経験も重要と考えると、10年以上前の経験も評価対象にならないのでしょうか。	3. 本業務の目的(2)(3)に記載のとおり、本業務では日本の知見、技術、経験等の途上国への適用方法を検討することを主眼にしています。途上国の経済社会環境は過去10年間で大きく変容していることから、評価においては最近10年程度の類似業務の経験にプライオリティをおいています。
5	全体	日本の廃棄物管理の経験として、“戦後”も含まれていますが、具体的に何年頃からを想定されているでしょうか。	主に1945年以降を想定していますが、例えば、法制度をレビューする上で、戦後の廃棄物処理法(1970年)、清掃法(1954年)に加え、汚物掃除法(1900年)など戦前の情報も必要に応じて取り上げたいと考えています。
6	P15 第2章特記仕様書 4. 業務の内容(1)国内業務 ①重点項目(ウ)途上国における廃棄物管理の課題・過去のJICA事業の教訓	・“成功例、失敗例の整理・分析”については、(2)現地調査の対象となった案件を対象とする机上調査と理解してよいですか。	基本的にはご理解のとおりですが、アドバイザーや監修委員等の関係者からの提言により、現地調査対象国以外の案件も整理・分析する場合があります。
7	「3. 業務における留意点」 (1) 調査体制 13頁	リソースパーソンに関して、「人材を受注後に作成する業務計画書において提案すること」とあります。技術提案書で人材の提案をしても加点対象にならないとの理解でよろしいでしょうか。	現段階ではリソースパーソンの具体的な提案は求めていません。他方、業務の実施方針等において人選の方針や求められる知見等を記載される場合には、本業務の目的との整合等の観点からプロポーザル評価の対象とします。
8	「4. 業務の内容」(3)②(ア) 既存資料の調査 18頁	「他に有用な文献がある場合は、業務計画書にて提案すること」とあります。技術提案書で文献の案をしても加点対象にならないとの理解でよろし	現段階では有用な文献の具体的な提案は求めていません。他方、業務の実施方針等において人選の方針や求められる知見等を記載される場合には、本業務の目的との整合等の観点からプロポーザル評価の対象とします。

通番号	当該頁項目	質問	回答
		いでしょうか。	
9	「4. 業務の内容」(3)②(ア) 既存資料の調査 18 頁	ご提供頂ける JICA 資料に「JICA 研修事業での講義資料及び講師リスト」とありますが、こちらの資料は、課題別研修で使用されている教材のことでしょうか？ また、課題別研修以外の研修で使用されている教材等もご提供頂けるのでしょうか？	ご理解のとおりです。業務の開始前に JICA から提供する予定です。なお受注者から個別具体的な研修について資料提供の希望があった場合、研修委託にかかる契約や著作権等の関係により対応できない可能性があります。
10	P. 28 表中の「2. (1) 課題に関する現状認識」	この表中では「5 頁以下」との指定ですが、P. 31 の (2) 1) 「課題に関する現状認識」では、「記述は全体で 4 ページ以内としてください」との記述です。ページ数はどちらにすればよろしいでしょうか	P31 の該当箇所の記載を以下のとおり訂正します。 【訂正前】記述は全体で 4 ページ以内として下さい。 【訂正後】記述は全体で 5 ページ以内として下さい。
11	入札説明書 36P 3(1) 国内再委託費 (映像教材の作成)	映像教材については P21 より和・英・仏・西の多言語での作成が必要と理解しますが、その翻訳費用については国内再委託費 (映像教材の作成) の定額計上に含まれているとの理解で宜しいでしょうか？	ご理解のとおりです。
12	P-16 4. 業務の内容 (2) 現地調査 < 対象国の選定方法 >	「以下に候補となる国名および主要な案件を挙げる」とあるが、記載された国および案件以外を提案する事は可能でしょうか？ また、地域・国毎に対象とする案件数については、ここに記載される件数と同数とすべきでしょうか？	まず、入札説明書に記載されている国及び案件以外を技術提案書において詳細の理由を記載した上で提案することは可能です。提案された場合はプロポーザル評価の対象とします。また、件数については特に制限はありませんが、抽出条件については、P16 の < 調査対象国の選定方法 > に記載されている①～③を踏まえて対応頂ければと思います。

通番号	当該頁項目	質問	回答
		国・案件の抽出条件について明確な基準等あればご提示願います。	
13	P-36 3. 定額で計上する経費	(3) 旅費の7,553千円については、航空賃の他に日当、宿泊を含むと理解して良いでしょうか？	ご理解のとおりです。
14	P29 (内訳) 現地作業: 約 2.66M (現地渡航回数: 延べ4回) 国内作業: 約 25.00MM	延べ渡航回数が4回というのは、業務従事者4名が各々1回ずつ現地渡航するという理解でよいのか。	のべ渡航回数は8回と修正します。 本案件の現地渡航の方法は1チーム2名による渡航とし、以下の想定とします。 ①業務主任者／廃棄物管理計画・制度と②廃棄物管理技術は別のチームとし、各々2回ずつとします(計4回)。 ③組織・財務又は④関係者分析／社会配慮は、①又は②のいずれかとペアになり、各々2回ずつとします(計4回)。

以上